



39:5 だれが野ろばを解き放ったのか。だれが野性のろばの綱をほどいたのか。

39:6 わたしは荒れた地をその家とし、不毛の地をその住みかとした。

39:7 それは町の騒ぎをあざ笑い、追い立てる者の叫び声を聞かない。

39:8 山岳地帯はその牧場、それは青い物を何でも捜す。

39:9 野牛は喜んであなたに仕え、あなたの飼葉おけのそばで夜を過ごすだろうか。

39:10 あなたはあぜみぞで野牛に手綱をかけることができるか。それが、あなたに従って谷間を耕すだろうか。

39:11 その力が強いからといって、あなたはそれに抛り頼むだろうか。また、あなたの働きをこれに任せるだろうか。

39:12 あなたはそれがあなたの穀物を持ち帰り、あなたの打ち場で、これを集めるとでも信じているのか。

39:13 だちょうの翼は誇らしげにはばたく。しかし、それらはこうのとりの羽と羽毛であろうか。

39:14 だちょうは卵を土に置き去りにし、これを砂で暖めさせ、

39:15 足がそれをつぶすことも、野の獣がこれを踏みつけることも忘れている。

39:16 だちょうは自分の子を自分のものでないかのように荒く扱い、その産みの苦しみがむだになることも気にしない。

39:17 神がこれに知恵を忘れさせ、悟りをこれに授けなかったからだ。

39:18 が高くとびはねるとき、馬とその

乗り手をあざ笑う。

39:19 あなたが馬に力を与えるのか。その首にたてがみをつけるのか。

39:20 あなたは、これをいなごのように、とびはねさせることができるか。そのいかめしいいなぎは恐ろしい。

39:21 馬は谷で前掻きをし、力を喜び、武器に立ち向かって出て行く。

39:22 それは恐れをあざ笑って、ひるまず、剣の前から退かない。

39:23 矢筒はその上でうなり、槍と投げ槍はきらめく。

39:24 それははいきりたつて、地を駆け回り、角笛の音を聞いても信じない。

39:25 角笛が鳴るごとに、ヒヒーンといいなぎ、遠くから戦いをかぎつけ、隊長の怒号と、ときの声を聞きつける。

39:26 あなたの悟りによってか。たかが舞い上がり、南にその翼を広げるのは。

39:27 あなたの命令によってか。わしが高く上がり、その巣を高い所に作るのは。

39:28 それは岩に宿って住み、近寄りたいたい切り立つ岩の上にいる。

39:29 そこから獲物をうかがい、その目は遠くまで見通す。

39:30 そのひなは血を吸い、殺されたものがある所に、それはいる。

主は野生動物と家畜についてヨブに語りかけます。その生態はなぞが多いばかりか、環境に適應しながら生きるすべをどのように獲得したのか、主は問いかけます。(実際に動物の機能が、偶然の積み重ねによる進化であるとしたら、環境に適合できる形態になる前に絶滅していたでしょう。)

理性で考えたとしても、私たちはただ神の前にひれ伏すのみです。そして、偉大な神は秩序と摂理の主であることを、心に留めて信頼するのみです。また野牛に仕事させられないように、神の造られた世界を思い通りにはできません。その点でもへりくくだりつつ、神のみこころを聞きましょう。

さらに主は動物の能力についてヨブに語ります。だちょうは飛べないが、足は速く、しかし子育てに関しては無頓着です。他の動物もそうですが、そのような本能の違いの中で繁殖と食物連鎖を繰り返しながら、地球上で絶妙なバランスを保っているのです。これらの本能が遺伝子の中にどのように組み込まれているのかは、全くわかりません。(遺伝子科学で進んでいるゲノムの解析はあくまでも形態に関してです)馬やわしに関しても同じです。

神の知恵と創造の力の前に、人類はひれ伏す必要があるのです。そのとき、私たち1人1人についても、神様の主権による創造のすばらしさが分かってきます。命、動物の形態と本能、そして人間1人1人の創造について、神の知恵の全部はわからないものです。「人間がわかっている」と思い違っていると罪の隙を与えるのです。主に聞いて従いつつ、人生を全うしましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？